

# ボランティアと行く日本美術史の旅

## 縄文時代から江戸時代まで

2021年12月発行

東京国立博物館ボランティア 本館ハイライトツアーグループ

ご挨拶

私たち本館ハイライトツアーグループは、東京国立博物館に初めて来たお客様や、日本美術初心者の方に向けて、本館2階の作品をわかりやすくご案内しています。コロナ禍のためガイド休止中ですので、WEB新聞でツアーをお届けします。



東京国立博物館の本館2階では、縄文時代から江戸時代までたくさんの作品をほぼ時代順に鑑賞できます。

今回は各展示室をご案内し、これまでメンバーがガイドしてきた中から、おすすめの作品をご紹介します。

(展示替えのため、現在展示されていないものもあります。)

大理石の大きな階段を昇って、2階に集合!

1室から10室まで、日本美術史の旅に出発です。

(イラストは当館の公式キャラクター、トーハクくんです。)



本館(重要文化財) 大理石の階段

### 1室 日本美術のあけほの、仏教の興隆

縄文・弥生・古墳時代の土器や埴輪、飛鳥・奈良時代の仏教美術の作品を展示しています。

2022年1月2日から7月3日まで、右の作品「埴輪 踊る人々」(埼玉県熊谷市野原古墳出土、古墳時代・6世紀)が展示されます。ペアで踊るようなポーズです。ポカンとあいた目と口の愛らしい姿は、トーハクくんのモデルになりました。(担当 HM)



### 2室 国宝室 選りすぐりの国宝を毎月1件ずつ展示し、ゆったりと鑑賞していただきます。

2022年1月2日から16日まで、長谷川等伯の国宝『松林図屏風』(安土桃山時代・16世紀)が展示されます。勢いのある筆の動きと墨の濃淡だけで、霧のなかに浮かび上がる松林。奥には遠く雪山が薄っすらと描かれています。じっと見ていると、まるで絵の中の松林に入っていくかのように感じられます。(担当 YS)



### 3室 仏教の美術、宮廷の美術、禪と水墨画

平安時代から室町時代までの仏教美術・宮廷美術、そして鎌倉時代から室町時代の水墨画・墨跡等が展示されています。

右の作品は、国宝「孔雀明王像」(平安時代・12世紀 展示期間未定)です。「孔雀明王」はさまざまな災いを除き、天変地異を鎮める力があるとされています。優美で華やかな色彩に加えて、ネックレスや腕輪などのアクセサリーには金箔を貼り、孔雀の羽や蓮の葉脈には繊細で緻密な金の装飾が施されています。この作品を含む平安時代末期の仏画は、祈りの対象であったばかりでなく、貴族たちの洗練された美意識が反映されたものでもありました。(担当 MN)



## 4室 茶の美術

茶の湯の文化にかかわる陶磁器、茶釜、掛軸などを展示しています。

右の作品は、「大井戸茶碗 有楽井戸」（朝鮮時代・16世紀 展示期間2022,1/2~3/21）です。朝鮮から請来された高麗茶碗の名品で、枇杷（びわ）色の肌合いと優美な姿形が印象的です。銘は、織田信長の弟で、茶人大名として名高い織田有楽斎が所持していたことに由来します。（担当 YI）



## 5・6室 武士の装い

鎌倉時代から江戸時代までの武士が用いた刀剣、刀装、甲冑、馬具、装束や武士の肖像画、書状などを展示しています。

右の作品は「南蛮胴具足」（江戸時代・17世紀、展示期間未定）です。西欧から伝わった甲冑の型を取り入れ、堅牢さや動きやすさを備え、戦場で目立つことも実現した、鎧と兜です。和洋折衷のユニークな形が見どころです。（担当 KT）



## 7室 屏風と襷絵

安土桃山時代から江戸時代の屏風や襷絵を展示しています。

右の作品は尾形光琳の重要文化財「風神雷神図屏風」（江戸時代・18世紀 展示期間未定）です。俵屋宗達が描いた屏風絵の模写ですが、風神雷神の視線や位置、黒雲の色合いを変えるなど独自の解釈を加えています。江戸後期の画家酒井抱一も同じ画題の作品を残しています。1972年、東京国立博物館で開催された「琳派」展以降、彼らの作品は一般に琳派と呼ばれるようになりました。（担当 RI）



## 8室 暮らしの調度・書画の展開

安土桃山時代から江戸時代にかけての調度品、絵画、書などを展示しています。

右の作品は伊藤若冲の「松梅孤鶴図」（江戸時代・18世紀 展示期間2022,1/2-2/6）です。卵からまっすぐな足が生えているように描かれた鶴が、ユーモラスでとても親しみが湧く一方、背景はタコの吸盤のような木肌、葉も刺々しく、梅の枝は針金のようなのです。とぼけた空気感の鶴と背景の緊張感が不思議な調和を感じさせてくれます。（担当 MT）



## 9室 能と歌舞伎

室町時代に武士の芸能となった能楽の装束と能面や、江戸時代の町人の芸能である歌舞伎衣装等を展示しています。

右の作品は、能の宗家のひとつ金春家に伝わった「唐織紅白段稲妻桐菊桜樹模様」（安土桃山時代・16世紀、展示期間未定）です。今から400年以上前の豪華な装束が、鮮やかな色彩のまま見られるのはすごいことです。（担当 SS）



## 10室 浮世絵と衣装

江戸時代の庶民を描いた浮世絵と、当時の女性たちのファッションを展示しています。

下の作品は、葛飾北斎の「富嶽三十六景・神奈川沖浪裏」（江戸時代・19世紀、展示期間未定）です。右奥の富士の頂きに向けて、今まさに巨大な波が砕け落ちる瞬間です。荒波に翻弄されている船は江戸へ魚を運ぶ押送船（おしおくりぶね）です。乗っている人々は必死にしがみついています。巨大な自然と、人間の小ささの対比が、あざやかに表現されています。（担当 YM）



東京国立博物館のコレクションは総数約12万件。そのうち国宝は89件、重要文化財は648件です（2021年3月31日現在）。本館は頻りに展示替えをしていますので、ご来館の都度新鮮な発見があります。

1月には長谷川等伯の「松林図屏風」の他、埴輪「踊る人々」、「大井戸茶碗 有楽井戸」、伊藤若冲の「松梅孤鶴図」等、見応えのある作品が多数展示されます。是非見に来てください。



発行：東京国立博物館ボランティア 本館ハイライトツアーグループ 2021年12月

（掲載作品はこれまで本館ハイライトツアーでご紹介した作品のため、現在展示されていないものもあります。また、展示予定は変更になることもあります。）